

令和7年度

病害虫発生予報

第10号

令和8年1月16日
千葉県農林総合研究センター長

I 向こう1か月間の予報

発生量及び発生時期は平年との比較で表す。予想発生量は「多」「やや多」「並」「やや少」「少」で表している。予報の根拠の（+）は多発要因、（-）は少発要因であることを示す。また、【】内の数値は左側が12月下旬～1月上旬の発生予察調査のデータ、右側が平年値（過去10年の平均値）を示す。

なお、「並」とは平年値を中心にして40%の度数に入る幅、「やや多」「やや少」は「並」の外側20%の度数に入る幅、「多」「少」は上記3者の外側10%の度数に入る幅である。

また、下表の病害虫を防除する場合は、「千葉県総合防除計画」の該当ページ（※）の「総合防除の内容」を参照するとともに、3ページの「2 個々の病害虫に関する防除上の注意事項」も参考とすること。

千葉県総合防除計画（令和6年3月版）



作物名	病害虫名	予想発生量	予報の根拠 (12月下旬～1月上旬の発生予察結果及び気象予報等)	※
冬春トマト	うどんこ病	少	発病株率：やや少【0.00%/1.48%】（-） 気象予報：日照時間多（-）	<u>30</u>
	オンシツコナジラミ	やや多	成虫寄生株率（オンシツコナジラミ）：並【0.00%/0.13%】 成虫寄生株率（タバココナジラミ）：多【1.60%/0.08%】（+） 12月黄色粘着トラップ誘殺数：やや多【1.29頭/0.34頭】（+） 気象予報：日照時間多（+）	<u>33</u>
	タバココナジラミ	多		
冬春キュウリ	うどんこ病	少	発病葉率：少【0.00%/8.22%】（-） 気象予報：日照時間多（-）	<u>37</u>
	褐斑病	並	発病葉率：並【0.00%/0.00%】 気象予報：日照時間多（-）	<u>38</u>
	菌核病	並	果実発病度：並【0.00/0.16】 気象予報：日照時間多（-）	-
	べと病	やや少	発病葉率：並【2.40%/12.01%】 気象予報：日照時間多（-）	<u>39</u>
	アザミウマ類	多	成幼虫寄生株率：やや多【3.20%/0.48%】（+） 気象予報：日照時間多（+）	<u>39</u>
キャベツ	菌核病	並	発病株率（冬キャベツ）：並【0.00%/0.86%】 発病株率（春キャベツ）：並【0.00%/0.00%】 気象予報：降水量少（-）	<u>36</u>
冬レタス	灰色かび病	並	発病株率：並【0.00%/0.11%】 気象予報：日照時間多（+）降水量少（-）	<u>42</u>
	菌核病	やや少	発病株率：やや少【0.00%/0.87%】（-） 気象予報：日照時間多（+）降水量少（-）	<u>41</u>

作物名	病害虫名	予想発生量	予報の根拠 (12月下旬～1月上旬の発生予察結果及び気象予報等)	※
イチゴ	うどんこ病	少	発病株率：やや少【0.80%/3.40%】(−) 気象予報：日照時間多(−)	<u>42</u>
	アザミウマ類	やや多	成幼虫寄生株率：並【0.53%/0.54%】 気象予報：日照時間多(+)	<u>44</u>
	ハダニ類	並	成虫寄生株率：並【13.60%/19.11%】 気象予報：日照時間多(+)	<u>45</u>
施設野菜共通	灰色かび病	やや少	発病株率(冬春トマト)：並【0.00%/0.08%】 " (イチゴ) : 並【0.00%/0.03%】 発病果率(冬春キュウリ)：並【0.00%/0.09%】 気象予報：日照時間多(−)	—
カーネーション	アザミウマ類	やや多	被害株率：並【12.00%/9.56%】 12月黄色粘着トラップ誘殺数：多【4.62頭/1.49頭】(+) 気象予報：日照時間多(+)	—
	ハダニ類	やや多	成虫寄生株率：やや多【0.80%/1.22%】(+) 気象予報：日照時間多(+)	—
施設ストック	菌核病	並	発病株率：並【0.00%/0.64%】 前年2月発病株率：並【0.00%/0.15%】 気象予報：日照時間多(+)	—
野菜・花き共通	コナガ	やや少	12月フェロモントラップ誘殺数：やや少【0.10頭/0.70頭】(−) 10株当たり寄生幼虫蛹数(冬キャベツ)： " (春キャベツ) : やや少【0.00頭/0.24頭】(−) " (春キャベツ) : やや少【0.00頭/0.13頭】(−) 幼虫寄生株率(施設ストック)：並【0.00%/0.88%】 気象予報：気温並か低(−) 降水量少(+)	<u>45</u>

* 1 フェロモントラップ誘殺数：1日当たりの誘殺数

1 防除に関する措置（共通）

- (1) 病害虫は早期発見に努め、発生初期から薬剤防除する。
- (2) 発病株及び罹病部位は、ほ場外へ持ち出し適切に処分する。
- (3) 害虫の薬剤抵抗性の発達や耐性菌の発生を防ぐため、同系統薬剤の連用は避け、ローテーション散布を行う。
- (4) 病害虫の発生を予防するため、温湿度管理、防虫網の設置、周辺雑草の除草、輪作や緑肥作物の栽培等の耕種的防除及び物理的防除に努める。

2 個々の病害虫に関する防除上の注意事項

- (1) コナジラミ類（冬春トマト）

令和7年度病害虫発生予報第2号P3「これから注意を要する病害虫」も参照する。



- (2) アザミウマ類（冬春キュウリ）

令和7年度病害虫発生予報第5号P4～5「これから注意を要する病害虫」も参照する。



- (3) ハダニ類（カーネーション）

晴天が続くと急激に密度が高まるので、ほ場をよく観察し、発生初期からの防除を心掛ける。農薬散布は葉裏まで充分にかかるように行う。

令和7年版農作物病害虫雑草防除指針（カーネーション）も参照し、薬剤抵抗性の発達を防ぐために、I R A Cコードが異なる薬剤をローテーションで選択する。



Ⅱ これから注意を要する病害虫

水稻の種子消毒について

水稻の種子伝染性病害には、いもち病、ばか苗病、もみ枯細菌病、苗立枯細菌病等がある。育苗期に発病すると移植前の苗を萎凋・枯死させるだけでなく、本田での第一次感染源となる。

種子伝染性病害の防除は、は種前の種子消毒で実施するが、処理方法が適切でないと防除効果が低下し、育苗床及び本田の病害発生を助長してしまう。

そのため、本項を参考に適切な種子消毒を実施し、防除効果を最大限高めるとともに、耕種的防除（無病種子の使用、作業場の清掃等）を組み合わせた総合防除を行うことが重要である。



写真1 育苗床におけるばか苗病発病株

〈育苗期の防除対策〉

1 耕種的防除

- (1) 無病種子を用いる。
- (2) 塩水選を行った健全な種もみを用いる。
- (3) 作業場を十分清掃し、伝染源となる多発ほ場の収穫物（わら、もみ）を除去する。
- (4) 消毒前と消毒後の種もみを、同じパレットやシート等に置かない。
- (5) 浸種、催芽で使用する機器や容器は、イチバン等で消毒する。
- (6) ばか苗病発病株は見つけ次第直ちに抜き取り、離れたところに埋設するか焼却する。
- (7) ばか苗病が発生した育苗箱の苗は、採種ほ周辺に植え付けない。
- (8) 20°C以上で浸種すると細菌性病害の発生を助長するので、10°C～15°Cで行う。
- (9) 催芽は30°Cで行う。32°C以上の高温は細菌性病害の発生を助長する。
- (10) 出芽後は温度管理を厳格に行い、25°C以下で管理する。夜間は低温に当てないように管理し、冷水によるかん水は行わない。

2 物理的・生物的防除

- (1) 温湯消毒を行う場合、種もみを「60°C・10分間」で処理する。処理条件が異なると発芽率や防除効果が低下するため、「60°C・10分間」の処理条件を遵守する。もち品種及び割れもみは発芽率が低下するおそれがある。
- (2) 温湯消毒は処理後の残効がなく、単用では化学合成農薬より効果が劣る場合があるため、微生物農薬と組み合わせた体系的な処理を行う（図、表1）。
- (3) 微生物農薬による種子消毒を行う際は、種もみを十分な量（容量比1：1以上）の薬液に浸漬する。薬液の温度が低いと効果が低下するため温度を10°C以上に保つ。浸種前、浸種中に浸漬処理をした場合は、処理後必ず水に交換する。その後水換えは頻繁に行わない。

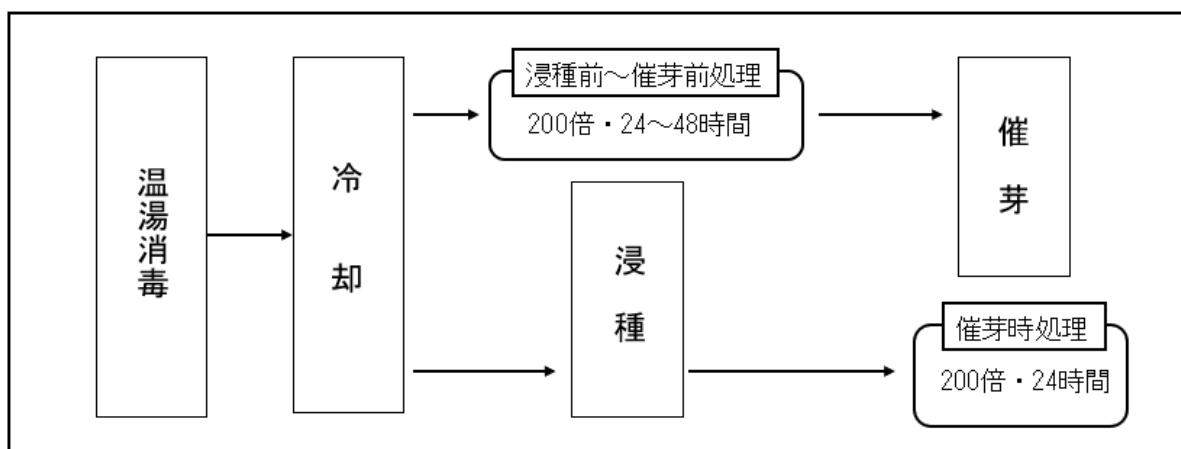


図 温湯消毒と微生物農薬の組み合わせ例

表1 種子消毒（浸漬処理）で用いる微生物農薬（農作物病害虫雑草防除指針から引用）

F R A C コード ※1	薬剤名	使用時期	希釈倍数・処理時間	使用 回数	細菌			かび(糸状菌)				
					苗立 枯 細 菌 病	もみ 枯 細 菌 病	褐 条 病	ば か 苗 病	い も ち 病	リゾ ープ ス 菌	フ ザ リ ウ ム 菌	トリ コ デ ル マ 菌
BM2	エコホープ D J	浸種前～催芽前	200倍 24～48時間	-	○	○	○	○	○	○		
		催芽時	200倍 24時間		○	○	○	○	○	○		
	タフブロック	浸種前	20倍 1時間						○	○	○	
		浸種前～催芽前			○	○		○	○			
		催芽前	200倍 24～48時間		○	○		○	○	○	○	
		催芽時	200倍 24時間		○	○	○	○	○	○	○	

※1 F R A C コード：殺菌剤の作用機構の分類を表すものである。

※2 浸漬処理後は過度な風乾を避ける。

※3 浸種が長期間になる場合は催芽前日または、催芽時に浸漬処理する。

3 化学的防除

- (1) 浸漬による種子消毒を行う際は、薬剤の効果を安定させるため、目の粗い袋にゆったり入れた種子を所定濃度で十分な量(容量比1:1以上)の薬液に浸し、袋をよく振り空気を追い出した後浸漬する。薬液の温度が低いと効果が低下するため温度を10°C以上に保つ。低濃度長時間処理の時は、袋をよくゆすって薬液をかく拌し、薬液は使いまわさない。処理後は水洗いせずに浸種する。
- (2) 浸種時の水温は10°C～15°Cを目標に管理し、浸種後2日間は薬剤が落ちないよう、水交換をしない。また、水交換を行う際は、静かに行う。ただし、ヘルシードTフロアブル、モミガードC・DF、ヨネポンを使用する際は、原則水交換を行わない。

表2 種子消毒(浸漬処理)で用いる主要な化学合成農薬(農作物病害虫雑草防除指針から抜粋)

F R A C コード※1	薬剤名	希釈倍数・処理時間	使用 回数	細菌			かび(糸状菌)				
				苗立 枯 細 菌 病	もみ 枯 細 菌 病	褐 条 病	ば か 苗 病	い も ち 病	ご ま 葉 枯 病	リゾ ープ ス 菌	トリ コ デ ル マ 菌
3	スポルタック乳剤	100倍10分間 または1000倍24時間	1回				○	○	○		
	トリフミン水和剤※2 トリフミン乳剤	30倍10分間 または300倍24～48時間					○	○	○		
M 1	ヨネポン	50～200倍24時間 または20倍10分間	1回	○							
		50～100倍24時間 または20倍10分間							○		
		50倍24時間 または20倍10分間					○	○			
		100倍24時間 または20～30倍10分間		○	○						
3・M 1	テクリードCフロアブル	20倍10分間 または200倍24時間		○	○	○	○	○	○	○	○
3・M 3	ヘルシードTフロアブル	20倍10分間		○	○	○	○	○	○	○	○
		200倍24時間		○	○	○	○	○	○		
3・12・M 1	モミガードC・DF	200倍24時間		○	○	○	○	○	○	○	○

※1 F R A C コード：殺菌剤の作用機構の分類を表すものである。

※2 トリフミン水和剤で浸漬処理した場合は、風乾後、水洗いせずに浸種する。

注 農薬の使用に当たっては、最新の農薬登録内容を確認し、製品ラベルに記載された使用基準等を守り適正に使用する。

○主要病害虫の発生状況 巡回調査結果（野菜：1月上旬、花き：12月下旬）

作物名 (調査地域)	病害虫名	調査項目	調査結果			備考
			本年値	平年値	前年値	
冬春トマト (海匝、長生)	うどんこ病 疫病 灰色かび病 " すすかび病 オンシツコナジラミ タバココナジラミ コナジラミ類 ハモグリバエ類	発病株率(%) 発病株率(%) 発病株率(%) 果実発病度 発病株率(%) 成虫寄生株率(%) 成虫寄生株率(%) 黄色粘着トラップ誘殺数 幼虫寄生株率(%)	0.00 0.00 0.00 0.00 0.40 0.00 1.60 1.29 0.80	1.48 0.04 0.08 0.00 0.48 0.13 0.08 0.34 0.60	0.00 0.00 0.00 0.00 3.20 0.00 0.00 0.09 0.00	
冬春キュウリ (山武)	うどんこ病 褐斑病 菌核病 灰色かび病 " ベと病 オンシツコナジラミ タバココナジラミ アザミウマ類	発病葉率(%) 発病葉率(%) 果実発病度 果実発病度 発病果率(%) 発病葉率(%) 寄生株率(%) 寄生株率(%) 成幼虫寄生株率(%)	0.00 0.00 0.00 0.00 0.00 2.40 0.00 6.40 3.20	8.22 0.00 0.16 0.28 0.09 12.01 1.32 2.50 0.48	0.60 0.00 0.00 0.00 0.00 0.80 0.00 14.40 0.80	
冬キャベツ (海匝)	菌核病 黒腐病 アブラムシ類 コナガ	発病株率(%) 発病度 成幼虫寄生株率(%) 10株当たり寄生幼虫蛹数	0.00 0.00 4.00 0.00	0.86 3.39 0.80 0.24	0.00 13.00 0.00 0.00	
春キャベツ (海匝)	菌核病 黒腐病 ア布拉ムシ類 コナガ	発病株率(%) 発病度 成幼虫寄生株率(%) 10株当たり寄生幼虫蛹数	0.00 0.20 1.60 0.00	0.00 0.25 1.98 0.13	0.00 1.80 12.80 0.00	
冬レタス (安房、君津)	灰色かび病 菌核病 腐敗病 ベと病 モモアカアブラムシ	発病株率(%) 発病株率(%) 発病株率(%) 発病株率(%) 成幼虫寄生株率(%)	0.00 0.00 0.00 0.00 0.80	0.11 0.87 0.22 0.00 0.00	0.00 0.00 0.00 0.00 0.00	
イチゴ (海匝、山武、安房)	うどんこ病 " 灰色かび病 " ワタアブラムシ ハスマンヨトウ アザミウマ類 ハダニ類	発病株率(%) 発病果率(%) 発病株率(%) 発病果率(%) 成幼虫寄生株率(%) 幼虫寄生株率(%) 成幼虫寄生株率(%) 成虫寄生株率(%)	0.80 0.11 0.00 0.00 0.80 0.00 0.53 13.60	3.40 0.23 0.03 0.00 3.09 0.05 0.54 19.11	2.40 0.04 0.00 0.00 5.07 0.27 0.27 7.20	
カーネーション (安房)	萎凋症 立枯病 アザミウマ類 " ア布拉ムシ類 " ハダニ類	発病株率(%) 発病株率(%) 被害株率(%) 黄色粘着トラップ誘殺数 成幼虫寄生株率(%) 黄色粘着トラップ誘殺数 成虫寄生株率(%)	0.00 0.00 12.00 4.62 0.00 24.23 0.80	0.40 0.56 9.56 1.49 0.08 10.05 1.22	1.60 0.00 0.00 0.00 0.00 2.64 0.00	頭/30日
施設ストック (安房)	菌核病 萎凋病 黒腐病 コナガ " ア布拉ムシ類	発病株率(%) 発病株率(%) 発病株率(%) 被害株率(%) 幼虫寄生株率(%) 成幼虫寄生株率(%)	0.00 0.00 0.00 3.20 0.00 0.00	0.64 0.00 0.00 3.36 0.88 0.00	0.00 0.00 0.00 1.60 0.00 0.00	頭/30日

* 黄色粘着トラップ誘殺数は調査日数を30日に換算した値

トラップ月間誘殺数（12月）

区分	調査害虫名	トラップ設置場所	誘殺数			備 考
			本年値	平年値	前年値	
性フェロモン	コナガ	海匝	0.10	0.70	0.32	頭/日

○气象予報

1月15日気象庁発表

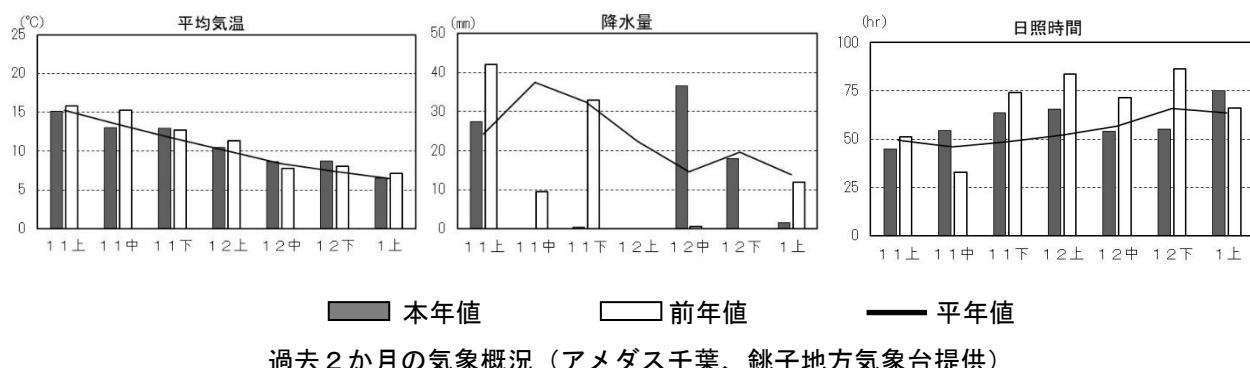
関東甲信地方における向こう1か月間の確率（%）

要 素	低い・少ない	平年並	高い・多い
気 温	40	40	20
降 水 量	60	30	10
日 照 時 間	10	30	60

向こう1か月間の各気象要素の平年値 (1月17日～2月16日)

要 素	千葉	銚子	館山
気 温 (°C)	6.0	6.5	6.4
降 水 量 (mm)	69.6	101.9	81.0
日 照 時 間 (hr)	187.6	178.1	172.9

出典：気象庁ホームページ



過去2か月の気象概況（アメダス千葉、銚子地方気象台提供）

農薬は適正に使用しましょう。無登録農薬の使用はできません。

- 農薬は、農薬取締法に基づいて、使用できる農作物の種類、適用病害虫、希釈倍数、収穫前日数、総使用回数などが定められています。
 - 登録番号のない薬剤は、農薬として使用できません。登録農薬には必ず登録番号が記載されています（記載例 農林水産省登録第〇〇〇号）。
 - 農薬はラベルをよく読んで適正に使用しましょう。
 - 飛散しないよう工夫して散布しましょう。
 - 農薬を使用したら必ず記帳するようにしましょう。
 - タンクやホースは洗いもれがないようきれいに洗っておきましょう。

- ・病害虫発生予察情報はインターネットでもご覧いただけます。
<https://www.pref.chiba.lg.jp/lab-nourin/nourin/boujo/>
 - ・次回の発行予定は3月18日です。
なお、注意報等の臨時情報は逐次発行されます。
 - ・県内で栽培される主要な農作物に発生する病害虫や雑草を
防除するための指針が千葉県HPで公開されています。
<https://www.pref.chiba.lg.jp/annou/shokubo/bojoshishin.html>
 - ・薬剤の選定については、最新の農薬登録情報を確認してください。
<https://pesticide.maff.go.jp/>



問合せ先

千葉県農林総合研究センター病害虫防除課

〒266-0014 千葉市緑区大金沢町180番地1
TEL 043(291)6077 FAX 043(226)9107
E-mail cafrc-bojo@mz.pref.chiba.lg.jp